

◆参加の動機と研修目的

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは、大学で学んだ地域づくりについて、この地域密着型インターンシップで実践の場を経験したいと考えたからです。特に、観光分野に興味を持っており、震災後の現状を知り、どのような観光振興策が有効なのかということについて考えてみたいと思っています。また、リーダーとして話し合いの中で物事を決め、団体をまとめる力をつけていきたいと考えています。

全体研修（9月1日、2日）

会津復興応援ラーメンツアー参加

☆内容

9月1日(木)新潟駅発着で会津、喜多方のラーメンを食べて、復興を応援しようという取り組みの一発目。一般向けのモニターツアーが行われました。素材広場からの参加者を含め約25名の参加がありました。年齢層としては20代から30代を始めとした、若年層が多かったように感じました。

☆気づき、学び

喜多方のラーメンは地元新潟でも、かなり認知度は高いと感じていましたが会津ラーメンは初めて耳にしました。喜多方市では90分の自由時間を利用して、松食堂に行きました。店内はこじんまりとした雰囲気でしたが、お昼を前にほぼ満席の状態でした。注文したのはチャーシューメン800円。600円のラーメンチケットを使って差額200円で頂くことが出来ました。これは激安です。ラーメンはすっきり醤油に太めのちぢれ麺で食べ応えがあり、するするっただきました。このような個人店舗はほぼ地元の方が利用することが多く、ロコミでお店の名前が知れ渡る事が大半だと思いました。その後、喜多方の街並みを散策。レトロをコンセプトに昭和のおもちゃや家電を置いたミュージアムがありました。蔵造りの街並みがこの雰囲気とマッチしていたのではないかと思います。木曜日ということもあり、道行く人は少数でした。最後に訪れたのは、大和川酒造さんです。酒蔵の多い喜多方ではありますが、酒瓶が整然と並べられた展示など、目をひくものが多かったです。試飲も自由にできました。バスで訪れる観光客に対しては、このような試飲のサービスは良いと思いました。

◆花ホテルたきのや（9月3日）柳津町

作業内容：7月29日、30日にかけて発生した新潟・福島豪雨による浸水被害の後片付け。宿内の清掃作業。家具等搬入。

☆被害状況と作業内容

花ホテル滝のやに1日間だけお手伝いに行きました。駅を降りると、柳津の名物「あわまんじゅう」屋がならんでいました。温泉街の雰囲気は漂い、会津の観光地を再発見しました。只見川のすぐ脇にある、滝のやは展望風呂を持つ柳津温泉でも代表的な旅館です。7月末の豪雨被害を感じさせない程街並みは整っていましたが、川は濁り、当日の流れを思い起こさせるものでした。滝のやは豪雨当日1m程の床上浸水の被害を受け、急いで1階から2階への食器、本、パソコン等の移動をしましたが、以前の豪雨の経験から浸水の被害を軽く見て、避難作業が遅れてしまったそうです。結果的には、畳が腐食してしまったことによる敷き換えなど、作業が大変だったそうです。

私がお手伝いした当日は、主に玄関周りの掃除を行いました。下駄箱の拭き掃除とシート敷きをはじめ、コーヒーセットの保管庫を掃除し、コーヒーカップや皿、ミルクサーバーなどを収納しました。その他、食器棚の組み立て、テーブルカバーのカットなどを行いました。また作業の合間の休憩時間には、社長の塩田さんから様々なお話を伺いました。

☆作業を通しての気づき、学び、失敗

作業を始める前に、社長さんをどう呼びすればいいかを確認する事を忘れてしまい、戸惑ってしまったことがありました。その様な事は、しっかりとお訊きして、確認しておくべきだと感じました。このような思いは、私だけが持っているのではなく共に協力して仕事をこなす間柄であれば、お互いに思っている事なのだと思います。ですから、はじめの自己紹介は大切です。

休憩時間中に自己紹介を含め、各々の将来の夢を発表しました。それぞれ夢がある人も無いという人も自分が何をしたいか、どんな風になりたいかという事を日々考え続けているのではないかと思います。すぐには実現できない夢でも、色々な寄り道をしつつ近づいていけばいいのではないかと思います。むしろ寄り道なしでは、夢は実現できない物なのだと感じました。

また、印象的だったのは、社長塩田さんの経歴についてです。いくつか行きたい業界、会社があった塩田さんですが、なかなか内定をもらえず悩んだ事があったそうです。思案の末、中堅の旅行会社に行くため、アルバイトという立場でその旅行会社に雇ってもらい実際の旅行業務を経験したそうです。その経験の中で、お客様に塩田さんの名前を覚えてもらい、塩田さんの同行するツアーにぜひ参加したいという方が出てきたそうです。その人望を買われ、その会社に入社試験を受けさせてもらう事ができめでたく入社が決まったそうです。その仕事に就きたいという思いが、実際に業務を経験する事に行きついたという事をお聞きし、自分の就職活動を振り返って、積極的な行動が大切なのだと感じました。

塩田さんのお話を伺い、自分の夢に向かって本当に動いているのか自分に問いただす良い機会になりました。

業務内容については、それぞれが声を出し合って協力して進める事が出来たので、良かったと思っています。どのような仕事があるのか、どのようにやればよいのか、という質問を積極的に発する事で、全体が何の仕事をしているのか全員が認識する事ができると思いました。

◆フィールドワーク（9月4日AM、9月11日）

◆モニターツアー準備（9月5日、6日）

観光復興に携わりたいという思いでこのインターンシップに関わる中で、会津復興キャンペーンの一環で行われている、モニターツアーに関わることになりました。実際の会津地域を舞台に、観光復興に取り組みさせていただけるのは、とてもやりがいのある仕事だと感じました。一つのツアーを実施するのにも、訪問場所の手配、確認から、広報、旅程管理、進行、安全管理など様々な項目を考えながら実施するのは容易なことではないと感じました。また、一人一人の責任も重く重要でない立場は一つも存在しないという厳しさも感じ、業務に責任を持たなければと思いました。

◆農業体験：会津若松市神指町高久下町 築田さん（9月4日PM、7日～9日）

☆体験内容と築田さんについて

農業体験として、会津若松市内の米、野菜、果樹の専業農家である、築田さんのお宅におじゃまし、様々な農業体験をしました。9月4日ははじめて築田さん宅にお邪魔し、早速驚いたのは、お昼ごはんの質と量です。初日はお昼ごはんから頂きました。ナスをふんだんに使用した、甘味噌かけナス、味のしみた煮物、みそ汁とあったかごはん。この心のこもった、お嫁さんのお昼が築田さんの第一印象です。

おいしくお昼ご飯を頂いた後、収穫後のキュウリ畑のハウスで、枯れたキュウリの枝を撤去する作業をお手伝いしました。キュウリの収穫は経験したことがありましたが、収穫後のキュウリ畑は初めて目にしました。ほこりが酷く、鼻の穴まで汚しながら作業に取り組みました。また新しい作物が、しっかりと成長できるように土のベッドを整えてあげる必要があるのです。50メートルはあろうかという大きなハウスでした。そのハウスの隣では、サトイモやナス、ツルムラサキ、大葉などを育てていましたが、昨年冬の大雪でその場所にあったハウス2棟を潰してしまったそうです。自然に左右される農業の難しさを知りました。作業後はナス、ピーマン、ミニトマトなどの新鮮な野菜を収穫させていただき、たくさんのお土産を頂きました。

9月7日から9日にかけては、白菜の苗植えと枝豆もぎを中心に行いました。白菜植えは小さなトレーに入った苗を丁寧に引き出し、畝にかかったビニールを一つ一つ破りながらやさしく植え付けていきました。あまり深く植えすぎない点がポイントで、やわらかい土をたっぷりかけてあげると良いそうです。この作業を1日半行い、足腰を痛めました。

枝豆もぎは、枝のままの豆を畑から引き抜き、一輪車で3、4回運び、軽トラックいっぱいの枝豆を集めました。家に戻ると、枝豆を枝から外す機械が登場し、作業の効率化を目の当たりにしました。手作業でもぐ

となると半日はかかる作業ですが、

1時間余りで機械を止め、機械が取りきれなかった枝豆を枝から外す作業に入りました。この作業が意外に手間で、落ちた枝豆の方が多量です。一番感じていた事は枝のままの時は、とてもかさばる枝豆ですが、枝から外してみると、これだけしか取れないのかと思った事です。だいたい、上

の写真のコンテナ4つで軽トラック約1台分になっています。それだけ商品価値が高く、単価が高いのが枝豆です。新潟では黒崎茶豆など枝豆の消費量が多い地域ですが、会津地域はそれ程消費量は高くないそうです。一人当たりの購入量の違いにも地域性が感じられました。

◆農業体験：河沼郡湯川村大字三川 片桐さん（9月10日）

米を中心に約3ヘクタールの水田を持つ専業農家片桐さん。会津若松市の北。阿賀川の東岸に広がる稲作地帯が湯川村です。特別栽培米や低農薬米のような食味を重視したお米を作っている片桐さんの田んぼには、雑草が多く生えてしまうとのこと。その雑草を田んぼの脇、中に入り、カマで切り取りました。雑草の種が田んぼに落ちないように注意しながら作業しました。炎天下の中での作業になりましたが、休憩を取りつつ作業を続けました。片桐さんは公務員として働いた後、米農家を継いだとのこと。後継者については悩みが多いところだそうです。近年は米の消費量減少の影響から減反が進み、収入が減少しているそうです。そこで全国的にコメの消費拡大のため、考案されていた「米粉」を使った米粉パンを普及させたそうです。村内では、米粉パン製造機を割引価格で購入できる制度ができたそうで、米粉の消費量増加に貢献しているそうです。



◆会津復興モニターツアーの準備、実施（9月12日～16日）

会津復興キャンペーンの一環で9月17日、18日に行われた会津復興モニターツアーの準備と企画に関わりました。

☆役割

リーダーのサポート役として、主に、参加者向けの行程表作成と準備品買い出し、バス会社への資料送付、手紙送付を行いました。

☆気づき・感想

パンフレットの送付など、相手先に届く日時を確認して、早めに送付するという、相手先を考えた対応が大切だと実感しました。相手への対応は一度ですが、これから先長い付き合いがあると考え、一つ一つの対応が大切だと思いました。また、準備品のリストづくりでは、築田さんとの情報伝達という面で、おおざっぱに準備品について確認をしていましたが、細かく聞いてみると不明な点が多くある等、直接お話しを聞く事が大切だと感じました。当日には築田さんはかなりお手伝いいただき、本当に感謝しています。

原瀧でのミーティングでは、会場の狭さに驚きつつも雰囲気の良い会場だと思いました。食と漆器の饗宴というテーマには合っている場所ではないかと感じました。また、漆器が料理とマッチして、お客様にも好評だったようです。会場は畳づくりということで、床に直接座り座談会形式で飲食をお楽しみいただけました。これもまた、新しいスタイルなのでは、と原瀧の支配人はおっしゃっていました。

◆会津復興モニターツアー（9月17日、18日）

9月17日

いよいよモニターツアー当日。予定通り、メディアの参加者の方々がバスにご乗車になった事をお聞きし、気持ちが引き締まります。私は、参加者の一人とご一緒に、合流場所の河東に向かいました。心配された天候でしたが、なんとか雲は多いながらも良いツアーになりそうだと感じました。

・お邪魔した所

☆小池牧場さん

乳牛を専門に飼育している小池牧場さん。主に会津中央乳業さんに生乳を卸しているそうで、まるまる太った牛が飼料を食べていました。子牛が2頭別の牛舎におり、それぞれ肉牛、乳牛となる運命が決まっていると、小池さんはおっしゃっていました。牛舎の匂いもそれほど無く、清潔に管理されているのだと思いました。



小池牧場さんの乳牛たち

☆会津漆器の木地師さん（有限会社 丸祐製作所）

木地というものは、漆器に漆を塗る前の段階での木の型づくりを言います。ひとつひとつお椀、茶筒などを機械で削りながら成形して行きます。丸祐製作所さんは、「丸物」を専門に作っています。最近は大口の発注が減り、苦勞しているそうですが、質の高い木地を作り続けています。

☆白木屋さん

実際に漆器が売っている姿を見てもらおうと、ツアー行程には入っていませんでしたが、七日町にある白木屋さんを訪れました。皆さん興味を持って、漆器を見ていました。



☆原瀧 「食と器の饗宴」：写真上

食と器の饗宴と題して、プレゼンディナーが行われました。料理は、山際食彩工房さんのご協力を得て、大変素晴らしいものになりました。会津17市町村の食材を使い、目にも鮮やかな漆器にのせられた料理は、おいしさと楽しさに満ちていました。会津の食材を多くの人に知ってもらい、安心、安全でおいしいものだと思っただけだと思います。また、研修生が接待係として、メディアの方々と話す機会もあり、私たちの見識を広める良い機会ともなっていたと思います。



9月18日

☆築田さんの桃畑にて朝食：写真下

農家の朝ご飯を体験していただこうと、桃畑の下でブルーシートを敷き朝食を召し上がっていただきました。メニューは、煮物、漬物、トマト、みそ汁、白米、とシンプルなものが多かったですが、新鮮さと味付けの良さで、多くの人がごはんをおかわりしながら、朝食を楽しんでおられました。ここでもスタッフ、私達、研修生が参加者の輪に加わり、色々な話題で盛り上がりました。

☆会津中央乳業さん :写真上

会津坂下町にある、会津中央乳業さんは会津産の原乳を使い牛乳や乳製品を作っている工場です。HACCAP の認定を受けた工場は、上からガラス越しに見学する事が出来ます。会津の原乳は甘みがあるのが特徴だそうです。試飲をするなかで、牛乳、調整乳、特濃牛乳などそれぞれ味が違い、低温で長時間殺菌したものは、コクがあり美味しかったです。震災や原発による風評被害について、直接担当者の方に、メディアの方々が質問していたところが印象的でした。



☆佐藤貴光さん (米農家) :写真中

籾殻保存という独自の方法で、米を保存しているという佐藤さん。震災後の風評被害の影響をそれほど感じさせないで、会津米をブランド化していこうと意気込んでいらっしやったのが印象的で、力強く語っていただきました。



☆会津流バーベキュー :写真下

大川の河川敷で、会津流のバーベキューを行いました。当日は、強い日差しで熱い中でしたが、只見町のマトン、築田さん宅の新鮮でおいしい野菜を中心に炭火で焼き、たくさんの食材を召し上がっていただきました。また、築田さん特製の芋汁も大好評！メディア参加者とスタッフ、研修生、また築田さんの親交も深まり、とても楽しいひと時になりました。

■会津復興モニターツアーを終えて

会津地方は原発から100キロ以上離れていて、放射線の影響も少ないという中で、多くの方に現地に来てもらい、本来の会津を体験してもらった今回のモニターツアーはとても収穫のあるものだったと思います。福島から離れ遠くで暮らす人にとっては、福島がひとくくりで、震災の影響を受けているのではないかという、疑念を持たざるを得ない状況の中で、それぞれの地域が自分たちは震災前と変わらなく、がんばっているとい

う事を外に伝えていくことが大切なのではないかと考えました。

◆フィールドワーク

(福島市土湯温泉、相馬市訪問) 9月19日

フィールドワークの時間を使って、福島市から沿岸部にかけての状況について視察する機会を頂きました。震災の被害を直接的に受けた、土湯温泉は旅館、ホテルの約半分が営業再開できない状況にあるようで、これからの再建は長い道のりになりそうでした。そんな中、土湯温泉の道の駅を



訪れました。この道の駅は国道118号線沿いの山にあり、福島市と会津を繋ぐ道路沿いにあります。この日は、イベントが開催されており、足湯のサービスや福引き、フラダンス愛好家達(写真下)によるステージがありました。特に印象に残ったこのフラダンスの愛好家の方々。降雨にも関わらず、私たちに元気を与えるフラを披露していました。震災を乗り越える元気をもらいました。



土湯を後にし、相馬へ。相馬までは2時間あまりです。山道が続き運転も大変です。昼食で海鮮丼のお店に(写真上)連れて行っていただき、新鮮なお魚を食べさせて頂きました。その後は、沿岸部を視察。津波の被害を直接的に受けた様子を目の前に、言葉を失いました。テレビの映像で見る物よりも、残酷さがじかに伝わり、大変心が痛くなりました。しかし、海岸付近で倉庫を立て直すために作業をしている方々を見ると、震災を乗り越えて生きていこうとする、力強さを感じました。

◆会津祭り見学

9月23日に開催された、会津祭り武者行列を見学しました。大名行列とよばれるような仮装は初めて見たが、おごそかな雰囲気の中で、歩く武士たちは、歴史と情緒を感じさせるものでした。一日中、行列が行き来する様子は、市民に愛されている行事なのだと考えました。

◆原瀧研修 (9月23日、24日)

モニターツアーでもお世話になった、東山温泉の原瀧さんで研修をさせていただきました。私が担当したのは、宴会場と川床の2か所で主に下膳と料理運びをしました。連休の初日と2日目ということもあり、団体のお客様も多く、忙しい裏方のお仕事でした。皿の扱い方や分け方など、食器洗いの担当さんが洗浄しやすいようにお皿を適量ならべていく

という作業がありました。スピード感を持ってしかも丁寧に作業をするという事は、慣れる事が大切だと感じました。私も、1日目よりも2日目の方が、落ち着きを持って、下膳の対応ができたと思います。

◆築田さん（9月26日）

研修の前半では4日間ほどお世話になった築田さんですが、後半では1回のお邪魔でした。今回は、キャベツ畑の草取り作業を行いました。キャベツ畑は降雨不足により、一度は苗をだめにしてしまったようで、その後同じ場所にキャベツを再び植えたそうです。最近降雨が少量でもあり、大きく成長していました。それに伴い、雑草も増えキャベツ畑は荒れ放題。畝にビニールのマルチをかけますが、マルチにはなぜか多くの穴が。この穴、最近このあたりに出没する、キツネの仕業だそうです。キツネが歩くとマルチに穴があき、そこから雑草が生えてきてしまいます。その雑草も処理しなければならないので、大変な作業になりました。しかし、この作業が、栄養分をたっぷり吸ったおいしいキャベツを作るのです。

私が初めて築田さんを訪れた日から、5日目。モニターツアーでもお世話になったので、本当に親切にいただきました。おばあちゃん、おかあさん、おとうさん、むすめさん、ゆずちゃん、息子さん。本当にあたたかく迎えてくださりありがとうございました。私の第三の故郷は築田家に間違いありません。

◆柳津寸劇考案・披露（9月20日、21日、22日、27日、28日）

柳津町で来秋開催予定の全国門前町サミットに向け、柳津町を訪れる観光客の方々に対しお見せする劇として、柳津の元気と活気を伝える目的で、ストーリーを考案しました。とても大きなプロジェクトを任せられ、悩むこともありましたが、お寺への参拝の文化で発展してきた、門前町柳津を再び盛り上がらせるという事に、関われるということでやりがいのあるものだと感じました。



門前町柳津のシンボル圓蔵寺

ストーリーの考案にあたって、お客様である観光客について気を配る必要があると考えました。シニア層の方々にとっては、内容的に詳しく説明があった方が良いか、また、歩く速さが違うので、様々な方々の歩調に合わせられるようにストーリーを考える必要があります。

また、ストーリーの始めで、どのようにしてお客様を引き付けるかが問題になりました。形式ばった開始の挨拶よりも、自然にお客様を巻き込むような方法がよいのではないかと、いろいろな意見が出ました。

結果的には、町に伝わるあかべこをターゲットに柳津の町を巡っていくというストーリーの骨組みを考案しました。事前にストーリーを考案するだけでなく、その場でお客様のお話に対応するというようなアドリブの効く、寸劇を考案したほうが良いという結論を導きました。

◆概要

会津柳津駅に降り立った観光客たちに、柳津への歓迎の意を表す、博士とその助手。観光客たちと話しているうちに、博士が山で拾ってきたあかべこの話題に。このあかべこについて研究している博士は、このあかべこの言われについて研究していると話す。

突然後ろから、あかべこを盗られてしまう。

盗賊はそのあかべこがこの町にとって大切なものだと言い残す。

そのあかべこを追って、博士、助手、観光客たちは柳津の町を巡っていく。

それぞれの観光ポイントで柳津の良さに気付いていく。盗賊は隠れつつ、一行を導く。

観光協会の駐車場付近まで降りてきたところで、盗賊は止まる。

盗賊は、あかべこについて知りたがっている博士たちに、ようやくあかべこと圓蔵寺との関係について話し出す。

あかべこがこの町の人にとってとても大切なものだという盗賊（町人）の話の聞き、そんなあかべこを盗ってしまったことを博士とその助手は謝る。

町人は博士たちを悪者ではないと分かり、圓蔵寺に案内し一緒に行こうと誘う。

博士とその助手は観光客たちを誘って話の幕を閉じる。

◆まとめ～研修を終えるにあたって～

この研修を通して、私が得たのは相手の気持ちや環境を感じて行動するという事です。相手にとってどう感じ、それがどのような存在なのかという点について、しっかり考えることが大切だと感じました。それは地域づくりにおいて大切な部分と同じだと思います。つまり、その地域の気候や風土に合った食材や文化が、その地域に根付くということです。例えば、モニターツアーで使用した17市町村の食材は、それぞれの地域の気候に合ったものが食材となっています。食べ方や魅力の引き出し方もその地域の方が一番よく知っています。そのような相手の感性を生かして地域づくりを行っていくことが親しく、その地域と付き合っていく、その地域らしさを引き出すコツなのではないかこの研修期間で学びました。

また、私がこの研修で目標としていた、リーダーとして指示を出せるような存在になりたいという目標ですが、今回の研修期間で達成できたとは言えないと考えています。それは、前述したような相手を考えるという目標の達成が不十分だったと考えているからです。私がこれから社会に出るにあたって、大切な部分の一つをこの研修で学ぶことができ、それはこれからも続いていく、社会人としての学びであり大切な点だと感じました。

30日間お世話になりました。ありがとうございました。